

「平成15年度低コスト・低負荷型土壤汚染調査対策技術検討調査」 対象技術の評価等について

概要

環境省では、土壤汚染対策の一環として、実用レベルに達している低コスト・低負荷型の土壤汚染調査・対策技術を公募して、実証調査をし、技術評価して公表する標記調査事業を行っています。

このたび、平成15年度の調査結果を取りまとめましたので公表します。

本文

1 本調査の目的

土壤汚染対策法の施行により、指定区域に指定された土地等において土壤汚染の浄化等が必要となる箇所が増えています。土壤汚染対策の促進のためには、資力に乏しい汚染原因者や土地所有者等においても、無理なく速やかに汚染の除去等の措置が講じられ、周辺住民にとって安心・安全な環境を確保するための、低コスト・低負荷型の土壤汚染調査手法や対策技術を実用化して普及させることが必要不可欠となります。

このため、(1) 技術の有効性、技術の経済性、周辺環境等への負荷度、技術の実用性、技術の簡便性、総合的な評価の6つの観点から、技術の原理、実績等の技術情報を基に、公募技術の中から実証調査を行う技術を選定し、(2) 実証調査を行い、(3) 実証調査結果と技術情報について学識者による総合的な評価を行い、(4) 評価結果を公表することにより、実用レベルに達している技術の普及促進を図ることを目的としています。

2 本調査の経緯

- ・対象技術の募集：平成15年8月6日～9月5日 応募件数18件
- ・対象技術の採択：平成15年10月21日公表 7技術を採択
- ・実証試験の実施：平成15年10月末～平成16年3月

3 本調査の結果概要

採択した7件の技術について、現場実証試験等を行い、学識経験者からなる「低コスト・低負荷型土壤汚染調査対策技術検討会」において、技術の有効性、技術の経済性、周辺環境等への負荷度、技術の実用性、技術の簡便性、総合的な評価の6つの観点から当該技術の総合的な評価等をしていただいた結果の概要を別紙に示します。

4 評価についての留意事項

選択した技術は、揮発性有機化合物による土壤汚染に係る調査・対策技術のすべてを総覧した上で絞り込みを行ったものではなく、応募があった18件の技術のうちから、上記3に記した観点から、実施可能な範囲で7件を実証試験の対象として選定したものであり、選定されたこと自体をもって技術の優劣を示すものではないことに留意願います。

5 平成 15 年度低コスト・低負荷型土壌汚染調査対策技術検討会検討員名簿（五十音順）

氏 名	所 属 ・ 職 名
嘉門雅史	京都大学大学院地球環境学堂教授
川本克也	独立行政法人国立環境研究所 循環型社会形成推進・廃棄物研究センター 適正処理技術研究開発室長
駒井 武	独立行政法人産業技術総合研究所 地圏資源環境研究部門 地圏環境評価研究グループ長
中杉修身	独立行政法人国立環境研究所 化学物質環境リスク研究センター長 (現 横浜国立大学 行動研究推進センター客員教授)
(座長) 平田健正	和歌山大学システム工学部環境システム学科教授
細見正明	東京農工大学工学部化学システム工学科教授
矢木修身	東京大学大学院工学系研究科附属水環境制御研究センター教授

表紙・目次

水平井を用いたバイオスパーキング工法

鹿島建設株式会社

(共同研究機関：東京ガスエンジニアリング株式会社、東京ガス株式会社)

既設構造物下部における揮発性有機塩素化合物による土壌・地下水汚染を対象とした原位置浄化技術

大成建設株式会社

(共同研究機関：株式会社関配)

浄化剤注入による原位置浄化技術

大成建設株式会社

ウォータージェットを利用した超高压水による地層洗浄工法

田中環境開発株式会社

A M P工法と酸化鉄を用いたV O C処理技術

西松建設株式会社

(共同研究機関：山伸工業株式会社)

揮発性有機化合物による汚染土壌・地下水の酸化剤併用多孔間循環型浄化技術

三菱マテリアル資源開発株式会社

(共同研究機関：三菱ガス化学株式会社)

グラウンドエア・システム

三矢工業株式会社

(共同研究機関：グラウンドエア・システム研究会)